

1. 研究課題名

「温暖化の危険な水準及び温室効果ガス安定化レベル検討のための温暖化影響の総合的評価に関する研究」

2. 研究代表者氏名及び所属

三村 信男（茨城大学）

3. 研究実施期間

平成17～21年度

4. 研究の趣旨・概要

地球温暖化防止のため国連気候変動枠組条約は、その究極の目標を「地球の気候系に対して危険な人為的干渉を及ぼすことにならない水準において、大気中の温室効果ガスの濃度を安定させること」においている。しかしながら、「安定化すべき濃度」を、例えば大気中の二酸化炭素何ppmにすべきかについて、まだ確固たる知見は得られてなく、温室効果ガス濃度と影響の危険な水準との関係を明らかにすることが、緊急課題となっている。近年、欧州各国は、将来の影響出現経路や対策コストの比較などの研究を進め、危険な影響を回避するための安定化濃度を提案している。さらに、2007年に発表予定のIPCC第4次評価報告書においても地球温暖化がもたらす危険な影響と脆弱性は重要なテーマとなっている。わが国にとっても、今後、京都議定書の第1約束期間（2008～2012年）以降を見通した中長期的な気候政策立案のために、温暖化の危険な水準と安定化濃度を科学的に検討することが緊急かつ重要な課題になっている。

本プロジェクトでは、わが国及びアジア・太平洋地域を対象にして、分野別の影響（水資源、健康、農業、生態系、沿岸域・防災）を定量的（物理的影響と経済影響）に把握し、影響を和らげるための適応策を検討する。さらに、これらの研究成果を統合した排出・影響予測総合評価モデルを開発することによって、温暖化影響の危険な水準と温室効果ガスの安定化排出経路に関する研究を実施する。

それによって、分野別の温暖化影響に関して確固たる知見が集積されるとともに、統合されたわが国への影響と安定化濃度との関係が示されることによった、温暖化影響の視点から達成すべき気候安定化の水準が提案できることが期待される。

5. 研究項目及び実施体制

統合評価モデルによる温暖化の危険な水準と安定化経路に関する研究

（独）国立環境研究所）

温暖化による水資源への影響予測に関する研究

（東北大学、（独）農業工学研究所、東京大学、国土技術政策総合研究所）

健康面からみた温暖化の危険性水準情報の高度化に関する研究

（独）国立環境研究所、筑波大学、国立感染症研究所）

アジア地域のコメ生産に対する温暖化影響の確率的リスク評価

（独）農業環境技術研究所、筑波大学、（独）国際農林水産業研究センター）

温暖化の森林への影響と脆弱性の評価に関する研究

（独）森林総合研究所）

沿岸域における気候変動の複合的災害影響・リスクの定量評価と適応策に関する研究

（茨城大学、国土技術政策総合研究所、九州大学）

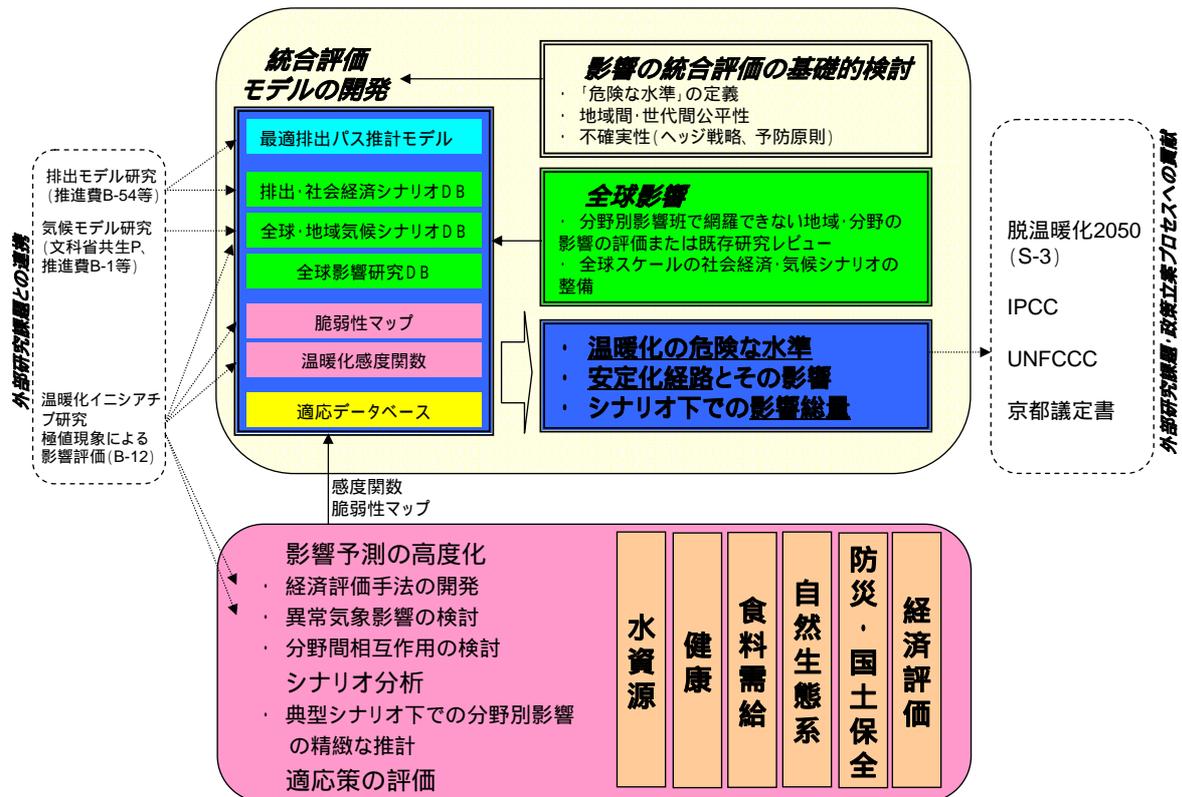
地球環境政策オプション評価のための環境・資源統合評価モデルの開発に関する研究

（東北大学、名城大学）



6. 研究のイメージ

サブ1(総括班)



サブ2～7(分野別影響評価班)